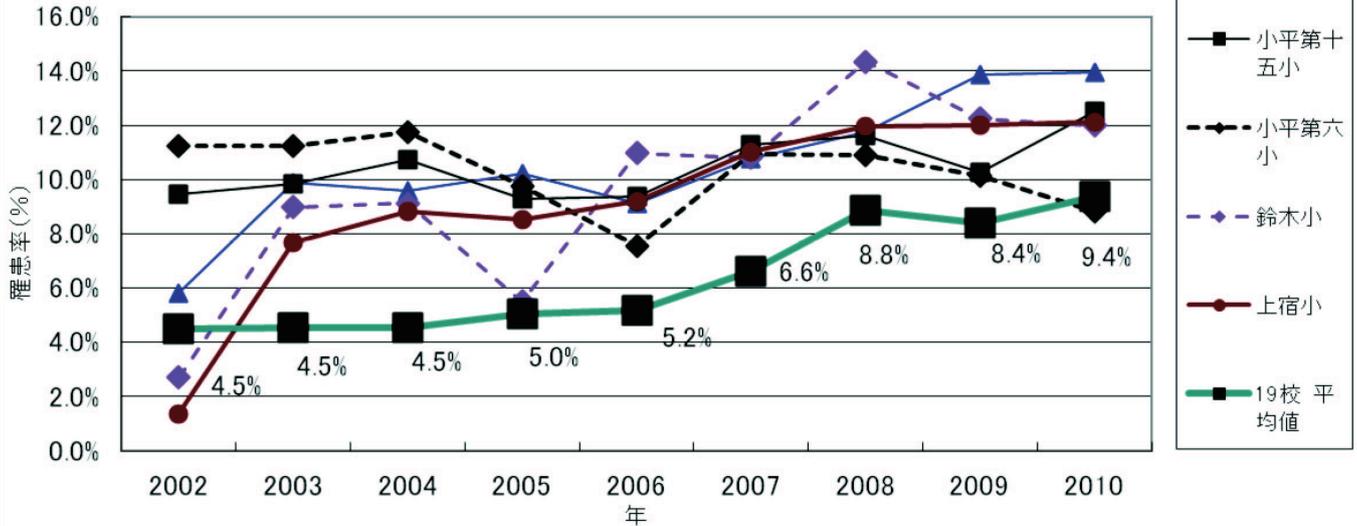


図5 小平市内小学校児童のぜんそく罹患率(喘息罹患患者数/受診者数)  
上位5校と全19校の平均値



## 大気汚染はどうなる？

環境影響評価書案では、大気汚染物質のうち、二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>) と浮遊粒子状物質 (SPM) について評価し、338号線ができて環境基準値内に収まるから問題ないとしています。

環境省は今年5月、全国57の小学校の児童を調査し、自動車排ガスのNO<sub>2</sub>など窒素酸化物への暴露とぜん息の発症に関係があることを認めました。小平市内小学校児童のぜんそく罹患率は、ここ数年上昇傾向にあります(図4)。ぜんそく罹患率が高い傾向にある小学校は、新青梅(11小)、府中街道(6小、15小)、新小金井(鈴木小)、青梅(上宿)などの主要幹線道路の近くに位置しています。特に鈴木小では、新小金井街道が全線開通した2006年以降、ぜんそく罹患率が大きく上昇しました。

二酸化窒素の環境基準値は、1978年に産業界からの圧力で、それまでの0.02ppm以下から0.06ppm以下へ改悪されたという経緯があります。今回の環境影響評価で、338号線沿道のNO<sub>2</sub>濃度は0.02ppmより高い0.038～0.039ppmになると予測されています。

さらに、環境影響評価では、ここ20年来、都内全域で環境基準値が達成されていない光化学オキシダント(光化学スモッグの原因で、粘膜を刺激する)や、一昨年9月に環境基準値が設定されたPM2.5(ぜんそくや気管支炎などの原因となる)については評価していない、という問題もあります。

1日に3万数千台の車が通ると予想される(現在の府中街道は1日16,000～18,000台)338号線の建設によって、周辺の大気汚染が悪化し、ぜんそく罹患率がさらに増えることが心配です。

**「対話の場」設置を  
求める請願の署名に  
ご協力を！**

都道小平338号線計画を考える会では、この道路について、小平市民全体の問題として考えるため、9月16日に、小平市議会に、この道路計画についての「対話の場」設置を求める請願を提出しました。

さまざまな視点を持つ市民が集まり、この計画に関して討論し、市民としての提言をまとめる「対話の場」の設置を求めています。趣旨にご賛同いただける方は、署名をお願いします。会のブログから用紙をダウンロードして下さい。<http://338kangaerukai.seesaa.net>

**◎署名締切：11月9日(水) 必着**

\*お手数ですが、請願者住所にお送り下さい。

**この請願は、11月11日(金)小平市議会の建設委員会で審議されます(小平市役所7階)。  
ぜひ、傍聴にいらしてください。**

..... **会員募集中!** .....

都道小平3・3・8号線計画を考える会では、会員を募集しています。一般会員、賛助会員ともに年会費1000円(個人)、3000円(団体)です。会費やカンパのお振込みは以下の口座へお願いいたします。詳細は会までお問合せください。

**加入者名：都道小平3・3・8号線計画を考える会  
郵便振替口座番号：00150-0-338212**